

高校改革推進計画

後期再編整備計画
〔平成22～27年度〕

～特色・魅力・活力ある学校づくりに向けて～

平成20年8月27日
(開校年度は平成20年11月28日決定)

大分県教育委員会

はじめに

本県における高校改革の取組は、平成5年の「大分県学校教育審議会答申」(生徒減少期に対応する高等学校教育の在り方について)や、平成11年の「大分県公立高等学校適正配置等懇話会報告」(大分県立高等学校の学校規模の適正化及び学校・学科の適正配置等の在り方について)を基本的な考え方として進めてまいりました。

平成16年には県内各界各層の委員からなる「高等学校改革プラン検討委員会」を設置して高等学校の再編整備等についての検討を依頼し、その「報告書」等をもとに平成17年3月には「高校改革推進計画」を策定しました。この計画において、今後10年間の再編整備計画策定の基本となる「再編整備指針」を決定するとともに、平成17～21年度を前期とした再編整備計画を発表し、現在着実に推進しているところです。

平成22年度からの「後期再編整備計画」につきましても、前期と同様、「再編整備指針」を基本に据えて検討することとし、平成19年10月、県内のPTA関係者、学校教育関係者、学識経験者、産業経済関係者等の代表者からなる高等学校再編整備懇話会を開催して、これまでの「高校改革推進計画」の取組状況について説明・検証するとともに、広くご意見をお伺いしました。

平成20年1月にはこれまでの基本的な考え方や様々なご意見等をもとにして後期再編整備計画の策定に向けた検討素案を発表し、県内各地域での懇話会や説明会を重ね、それぞれの地域における再編整備の在り方について説明するとともに、ご意見・要望等をお聞きしてまいりました。そして、これらのご意見・要望を総合的に勘案しながら審議を重ね、平成20年4月には再編対象校、校地、学科、学級数、統合方法等について、より具体的な「中間まとめ」として発表し、その後、県内各地域での懇話会や説明会を重ねるとともに、広く県民対象のパブリックコメントを実施してまいりました。

県の懇話会や地域での懇話会、さらには地域別の説明会やパブリックコメントにより、再編整備に対する多くのご意見や要望等をいただく中で、地域振興、農業単独校等を論点とする激しい議論が交わされてまいりましたが、教育委員会といたしましては、地域に子どもたちの数が少なくなっているという現状の中で、あくまでも「子どもたちにとって真に望ましい学校づくりはいかにあるべきか」という教育の本質論を見据えた考え方に立って「後期再編整備計画」を策定いたしました。

今後とも大分県の高校教育が充実し、生徒一人一人の進路希望が達成できるよう特色・魅力・活力ある学校づくりを基本に据え、この計画の推進に努めてまいります。

目 次

1	後期再編整備計画の期間	...	1
2	基本的な考え方	...	1
3	後期再編整備計画（平成22～27年度）	...	2
4	地域ごとの再編整備計画	...	4
	（1）別杵・速見地域（杵築市、日出町）	...	4
	（2）別杵・速見地域（別府市）	...	5
	（3）大分・由布地域（由布市）	...	7
	（4）大分・由布地域（大分市）	...	8
	（5）臼津地域（臼杵市）、大分・由布地域（大分市）	...	8
	（6）臼津地域（臼杵市、津久見市）	...	9
	（7）佐伯地域（佐伯市）	...	10
	（8）日田・玖珠地域（玖珠町）	...	11
5	高等学校の再編整備計画策定に係る「農業（高校）の基本的な考え方」について	...	12
6	募集停止の基準	...	13
【参考資料】			
	「高校改革」の経緯	...	15
	「高校改革推進計画」（平成17年3月29日策定）からの抜粋等（再編整備関係）	...	16
	前期再編整備計画（平成17～21年度）の進捗状況	...	18
	大分県中学校卒業生数の推移	...	19

- 1 後期再編整備計画の期間
平成22年度から27年度

- 2 基本的な考え方

高校改革推進計画（平成17年3月29日策定）の「再編整備指針」に基づき、地域の実情や学校を取り巻く状況等を総合的に勘案しながら計画を策定する。

再編整備指針

今後の中学校卒業予定者数の推移、学校数、普通科・専門学科・総合学科の配置等を勘案し、さまざまな生徒の学習ニーズに応じた新しいタイプの学校を設置するとともに、子どもたちが社会の変化に十分対応できるよう教育環境の整備を図る。

また、教育の機会均等という原点に立ち返り「子どもたちにとって、真に望ましい学校」という視点に立って進める。

- (1) 県全体の適正な学校配置を勘案しながら、現在の各通学区域（6通学区域）内に、普通科高校と専門高校等、選択可能な学校を複数配置するとともに、さまざまな生徒の学習ニーズに対応するため、総合選択制高校や中高一貫教育校・独立単位制高校等の新しいタイプの学校の設置・導入に努める。
- (2) 現在の各通学区域（6通学区域）内の学校・学科の発展的統合等により1学年6～8学級の適正規模化を図る。ただし、生徒や地域の実情及び学校・学科の設置状況等により、1学年4～5学級ができることも止むを得ない。
- (3) 再編整備は、生徒数の減少傾向の下げ止まりが予想される平成26年度までを見据え、県全体の適正な学校配置を勘案しながら原則として生徒減少が著しい地域から順次取り組むこととする。
当面は、平成21年度までの再編整備計画を策定することとし、以降については、再編整備の進捗状況や成果、学校教育を取り巻く状況等を踏まえながら推進することとする。

3 後期再編整備計画（平成22～27年度）

地域	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
別府・速見				山香農業、日出暘谷 (農業・工業 ・総合学科) 総合選択制 5学級程度		別府青山、別府羽室台 別府商業 (普通・商業・外国語) 単位制 8学級程度
大分・由布	独立単位制高校 [前期再編整備計画による]	由布 (連携型中高一貫教育の導入) (普通) 4学級	大分南(福祉新設) (普通・福祉) 8学級程度	大分東(農業新設) (普通・農業) 総合選択制 6学級程度		[別府商業高校が別府市から県に移管されない場合] 別府青山、別府羽室台 (普通・外国語) 単位制 6学級程度
臼津・佐伯			臼杵商業、海洋科学 津久見 (本校:普通・工業・商業) 総合選択制 6学級程度 (分校:水産) 1学級 海洋科学は現在地で分校	野津廃止(H26.3) (24年度入学生から募集停止)	佐伯豊南、佐伯鶴岡 (農業・工業・福祉・総合学科) 総合選択制 6学級程度	
日田・玖珠						玖珠農業、森 (普通・農業) 総合選択制 5学級程度

_____ : 校地となる学校

後期再編整備計画（平成22～27年度）の概要

（凡例）：普通
 ：専門
 ：専門・普通
 ：総合学科

【平成25年度】
 山香農業高校 } 農業(1)・工業(1)
 日出暘谷高校 } 総合学科(3)
 総合選択制 5学級程度

【平成27年度】
 別府青山高校 } 普通(4)・商業(3)
 別府羽室台高校 } 外国語(1)
 別府商業高校 } 単位制 8学級程度

[別府商業高校が別府市から県に移管されない場合]
 別府青山高校 } 普通(5)・外国語(1)
 別府羽室台高校 } 単位制 6学級程度

【平成25年度】
 大分東高校に農業系学科設置
 普通(4)・農業(2)
 総合選択制 6学級程度
 （国際コミュニケーション科を募集停止）

【平成24年度】
 大分南高校に福祉系学科設置
 普通(6)・福祉(2)
 8学級程度

【平成27年度】
 玖珠農業高校 } 普通(4)
 森高校 } 農業(1)
 総合選択制 5学級程度

【平成24年度】

[本校]
 白杵商業高校 } 普通(2)・工業(2)
 海洋科学高校 } 商業(2)
 津久見高校 } 総合選択制
 6学級程度

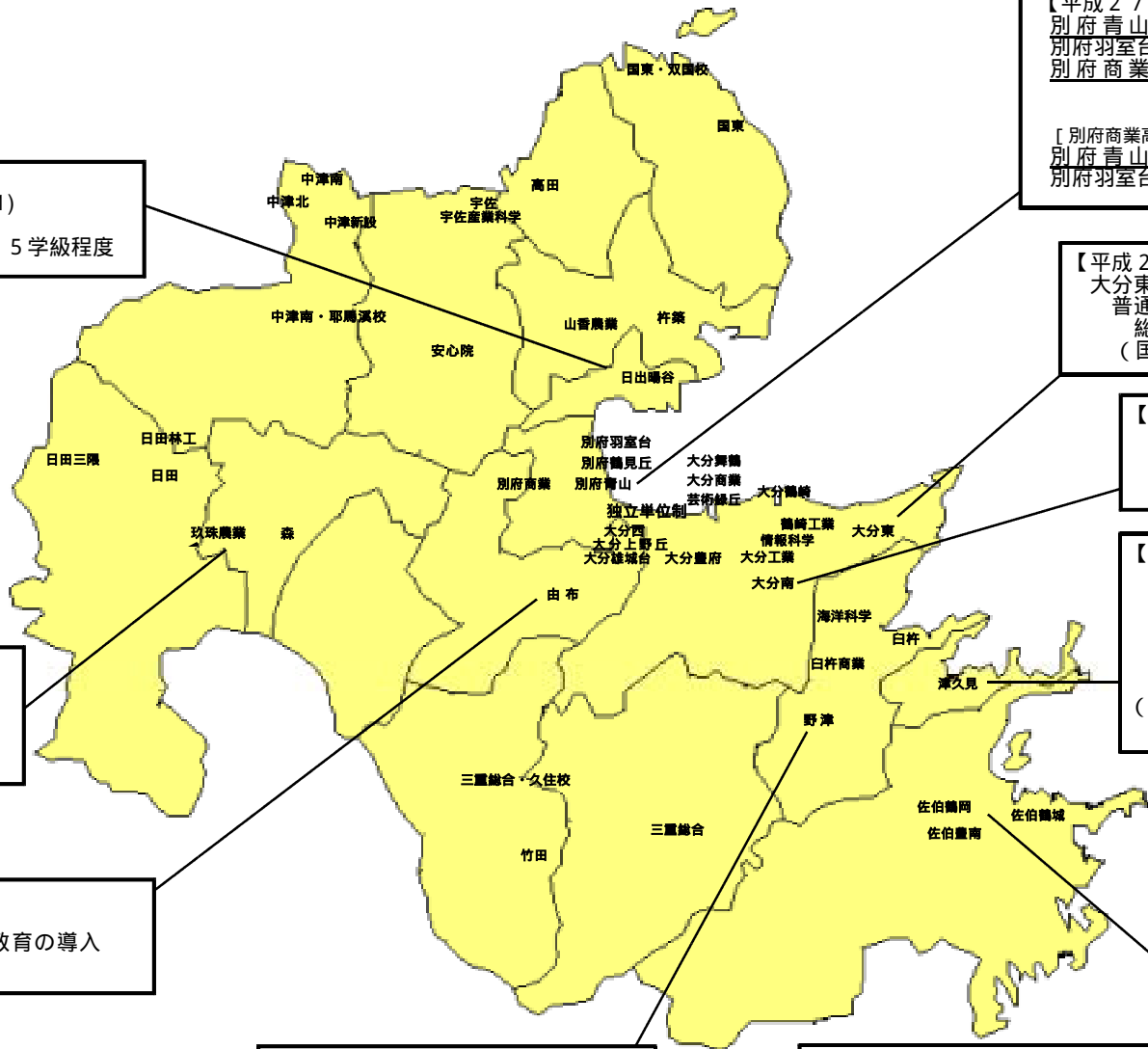
[分校]
 水産(1)

（海洋科学高校は現在地で分校）

【平成23年度】
 由布高校
 連携型中高一貫教育の導入
 普通(4)

【平成24年度】
 野津高校を募集停止
 （廃止は平成26年3月31日）

【平成26年度】
 佐伯豊南高校 } 農業(1)・工業(1)・福祉(1)・総合学科(3)
 佐伯鶴岡高校 } 総合選択制 6学級程度



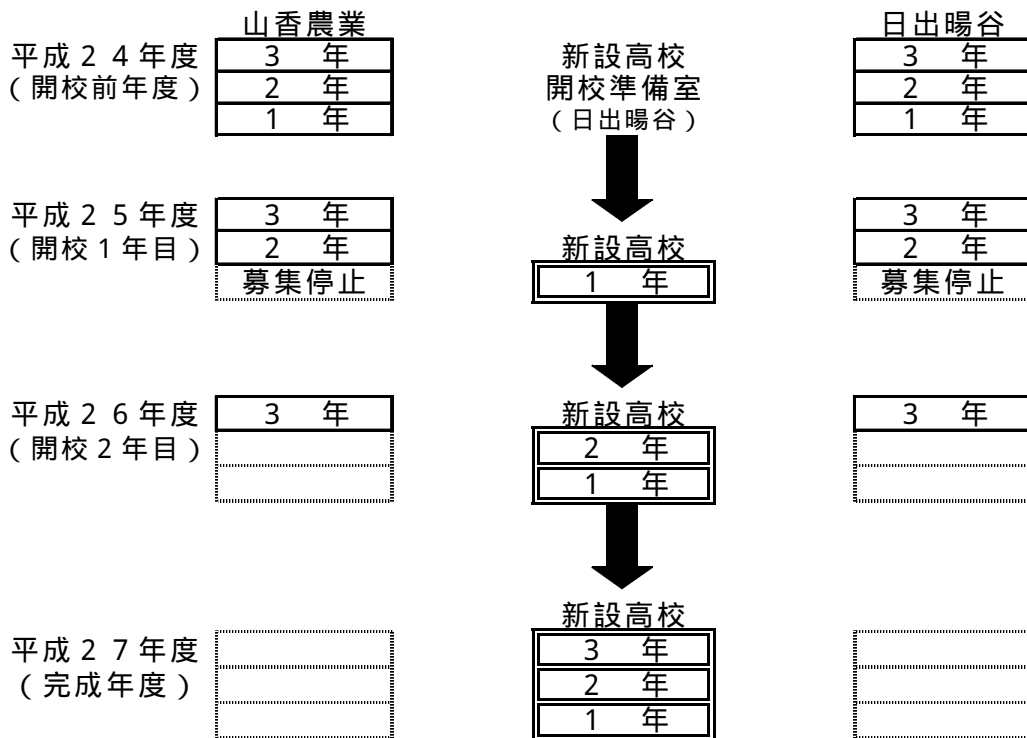
4 地域ごとの再編整備計画

(1) 別杵・速見地域（杵築市、日出町）

山香農業高校と日出暘谷高校を統合し、総合選択制高校とする。

平成20年度 第1学年	山香農業高校：農業系学科2学級 日出暘谷高校：総合学科4学級
新設高校の場所	現 日出暘谷高校の校地（日出町）
開校年度	平成25年度（平成25年4月1日）
設置学科及び 学校規模	農業系学科1学級・工業系学科1学級・総合学科3学級程度 1学年5学級程度
農場等の活用	山香農業高校の農場や宿泊施設等は、新設高校及び農業系学科を設置する高校の施設として活用するとともに、県内の児童・生徒及び教職員等の実習の場、研修の場、体験の場としての新たな活用を図り、農業を通じて広く人材育成を推進する。

統合の手順



(2) 別杵・速見地域(別府市)

別府青山高校、別府羽室台高校、別府商業高校を統合し、単位制高校とする。

平成20年度 第1学年	別府青山高校：普通科4学級 別府羽室台高校：普通科3学級・外国語科1学級 別府商業高校：商業系学科4学級 ()別府鶴見丘高校：普通科6学級
----------------	---

新設高校の場所	現 別府青山高校と別府商業高校を併せた校地(別府市)
---------	----------------------------

開校年度	平成27年度(平成27年4月1日)
------	-------------------

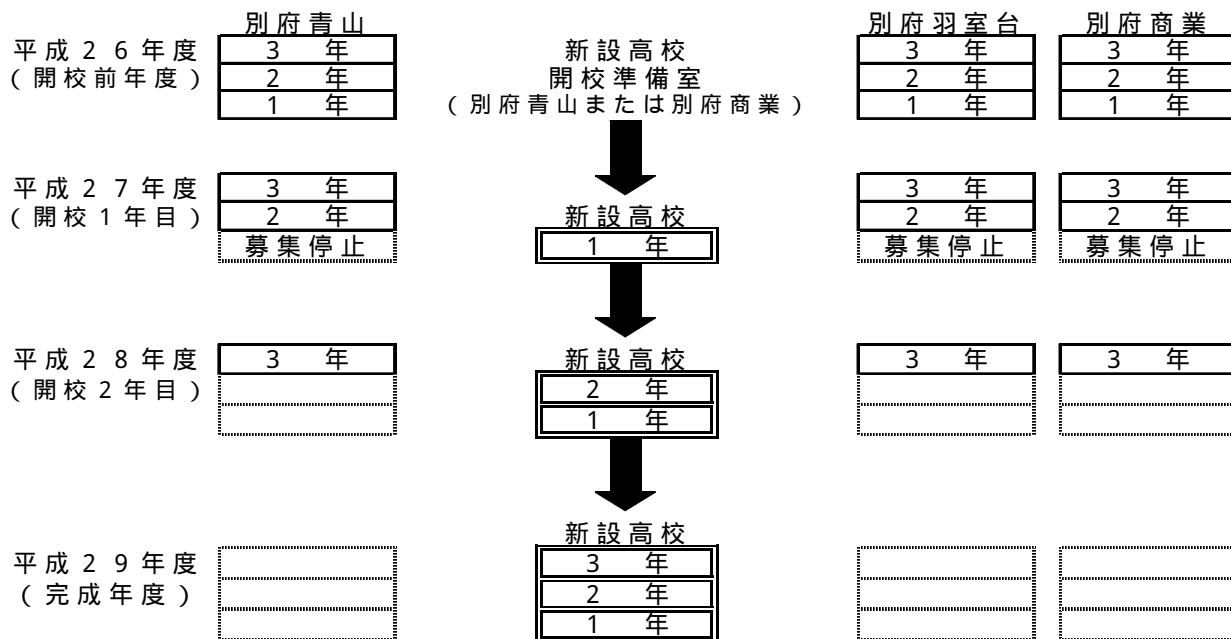
設置学科及び 学校規模	普通科4学級・商業系学科3学級・外国語科1学級程度 1学年8学級程度 ()別府鶴見丘高校を普通科1学年8学級程度とする。
----------------	---

教育の特色	外国語科を中心として、立命館アジア太平洋大学(APU)との連携をより一層強めるため高大連携を推進する協議会を設置し、生徒のニーズに対応した特色ある学校づくりをすすめる。
-------	--

(注)平成20年7月、別府市長及び別府市教育長から知事及び県教育長あてに提出された別府商業高校の県立移管の要請を受けて、再編整備計画を示したものである。

県教育委員会としては県立移管を前提として再編整備を進めるが、仮に県立移管が決定されなかった場合は次ページのとおりとする。

統合の手順



()開校年度から2年間は、県立の新設高校と市立の別府商業高校が施設等を共同で使用することとなる。

[別府商業高校が別府市から大分県に移管されない場合]

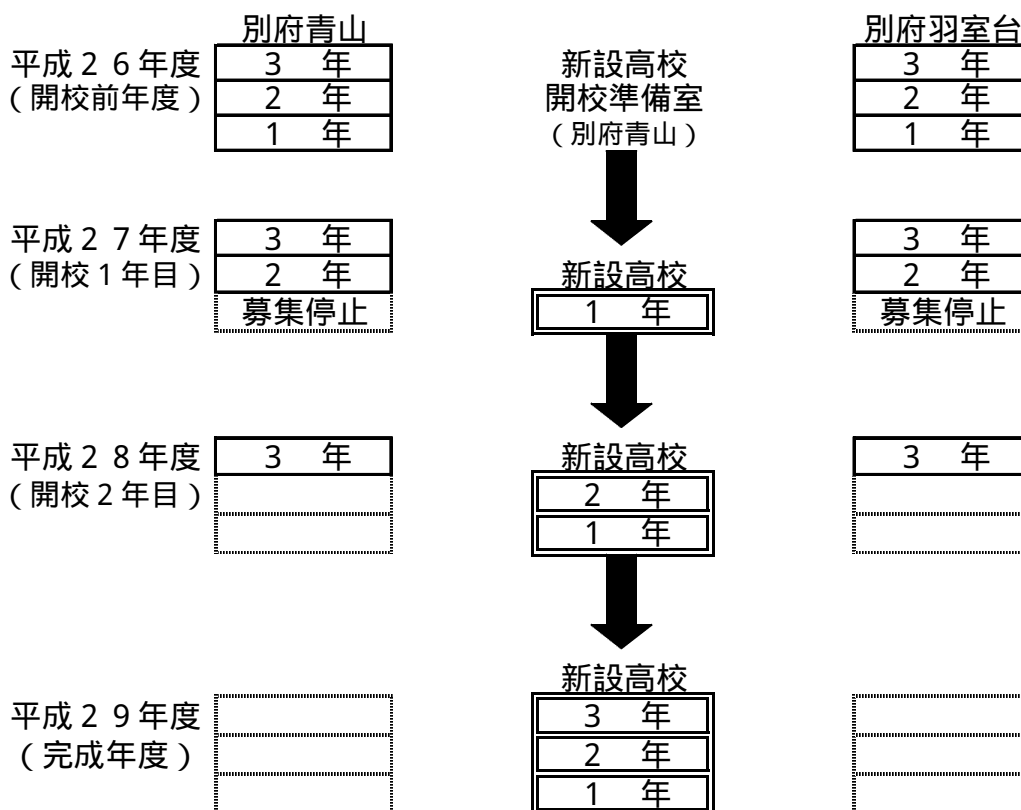
別府青山高校と別府羽室台高校を統合し、単位制高校とする。

平成20年度 第1学年	別府青山高校：普通科4学級 別府羽室台高校：普通科3学級・外国語科1学級
----------------	---

↓

新設高校の場所	現 別府青山高校の校地（別府市）
開校年度	平成27年度（平成27年4月1日）
設置学科及び 学校規模	普通科5学級・外国語科1学級程度 1学年6学級程度
教育の特色	外国語科を中心として、立命館アジア太平洋大学（APU）との連携をより一層強めるため高大連携を推進する協議会を設置し、生徒のニーズに対応した特色ある学校づくりをすすめる。

統合の手順



(3) 大分・由布地域(由布市)
由布高校に連携型中高一貫教育を導入する。

平成20年度 第1学年	由布高校：普通科2学級
----------------	-------------



導入年度	平成23年度(平成23年4月1日) ()平成21～22年度の2カ年は研究指定校として具体的な取組を実施する。
------	--

設置学科及び 学校規模	普通科 1学年4学級
----------------	------------

【具体的な取組等】

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
県教育委員会	入学定員を1学級増 1学年3学級	入学定員を1学級増 1学年4学級	連携型中高一貫教育 の導入
	平成21～22年度にかけて連携型中高一貫教育 に係る研究指定 ()		
由布高校 由布市内3中学校	[2カ年の研究事項の例] 由布高校普通科への多様なコース設定の研究 ・特別進学コース ・情報ビジネスや観光コース 等 中高の相互乗り入れ授業の研究 中高の交流行事の研究 連携中学校合同テストの研究		
由布市教育委員会	中高一貫教育推進の条件整備 ・連携型中高一貫教育の導入に係る教職員の応分の 負担 ・由布高校への通学に対するコミュニティバス(ス クールバス)の運行 ・由布高校生徒への奨学金の拡充		

()ただし、平成21～22年度に由布市からの志願者数が定員の3分の2以上となること。

(4) 大分・由布地域(大分市)

大分東高校の国際コミュニケーション科を廃止して農業系学科を設置し、総合選択制高校とする。

() 国際コミュニケーション科は農業系学科設置年度から募集停止とする。

平成20年度 第1学年	大分東高校：普通科3学級・国際コミュニケーション科1学級
----------------	------------------------------

実施年度	平成25年度(平成25年4月1日) () 国際コミュニケーション科は平成25年度から募集停止する。
------	---

設置学科及び 学校規模	普通科4学級・農業系学科2学級程度 1学年6学級程度
----------------	-------------------------------

農業系学科の 特色	農業系学科は、進学や新しいタイプの都市型農業を目指し、現山香農業高校の農場や宿泊施設等の有効活用も図る。
--------------	--

(5) 臼津地域(臼杵市) 大分・由布地域(大分市)

野津高校を廃止し、大分南高校に福祉系学科を設置する。

() 野津高校は福祉系学科設置年度から募集停止とする。

平成20年度 第1学年	野津高校：福祉系学科2学級 大分南高校：普通科6学級
----------------	-------------------------------

実施年度	平成24年度(平成24年4月1日) () 野津高校は平成24年度から募集停止する。
------	---

設置学科及び 学校規模	普通科6学級・福祉系学科2学級程度 1学年8学級程度
----------------	-------------------------------

福祉系学科の 特色	福祉系学科は、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できる学科とする。
--------------	-----------------------------------

(6) 臼津地域(臼杵市、津久見市)

臼杵商業高校、海洋科学高校、津久見高校を統合し、総合選択制高校とする。
海洋科学高校は現在地で、その分校とする。

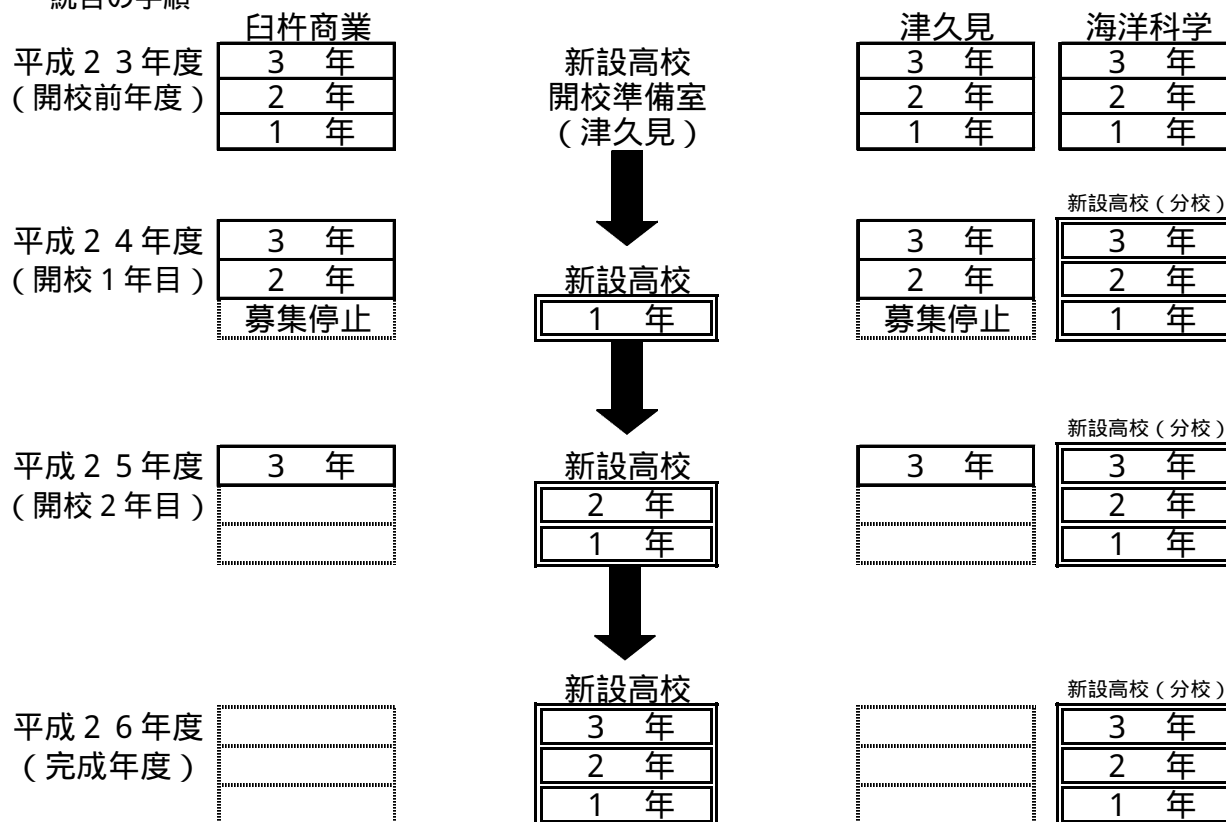
平成20年度 第1学年	臼杵商業高校：商業系学科2学級 海洋科学高校：水産系学科2学級 津久見高校：普通科2学級・工業系学科2学級 () 臼杵高校：普通科5学級
----------------	--

新設高校の場所	現 津久見高校の校地(津久見市) 分校：現 海洋科学高校の校地(臼杵市)
---------	---

開校年度	平成24年度(平成24年4月1日)
------	-------------------

設置学科及び 学校規模	普通科2学級・工業系学科2学級・商業系学科2学級程度 1学年6学級程度 分校：水産系学科 1学年1学級 () 臼杵高校を普通科1学年7学級程度とする。
----------------	---

統合の手順



[海洋科学高校について]

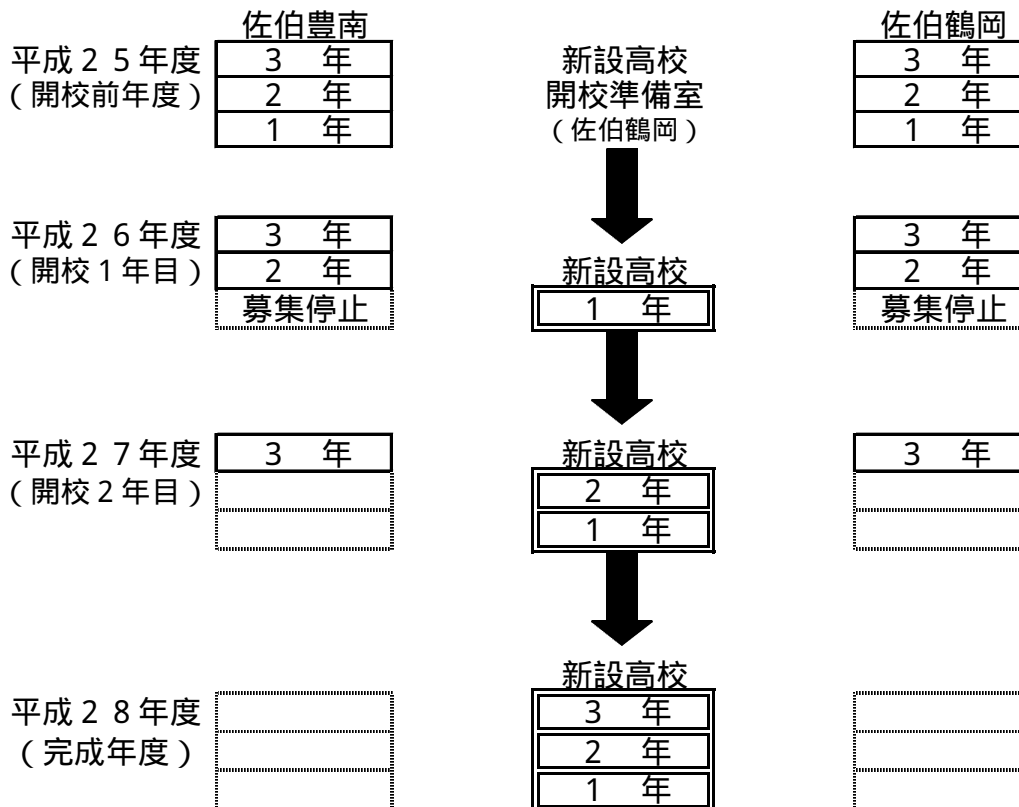
海洋科学高校は、津久見新設高校の分校となることから、校地はそのままで、生徒は海洋科学高校から分校に転校することとなる。

(7) 佐伯地域 (佐伯市)

佐伯豊南高校と佐伯鶴岡高校を統合し、総合選択制高校とする。

平成20年度 第1学年	佐伯豊南高校：総合学科5学級 佐伯鶴岡高校：農業系学科2学級・工業系学科1学級
新設高校の場所	現 佐伯鶴岡高校の校地 (佐伯市)
開校年度	平成26年度 (平成26年4月1日)
設置学科及び 学校規模	農業系学科1学級・工業系学科1学級・福祉系学科1学級程度 総合学科3学級程度 1学年6学級程度
福祉系学科の 特色	福祉系学科は、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できる学科とする。

統合の手順

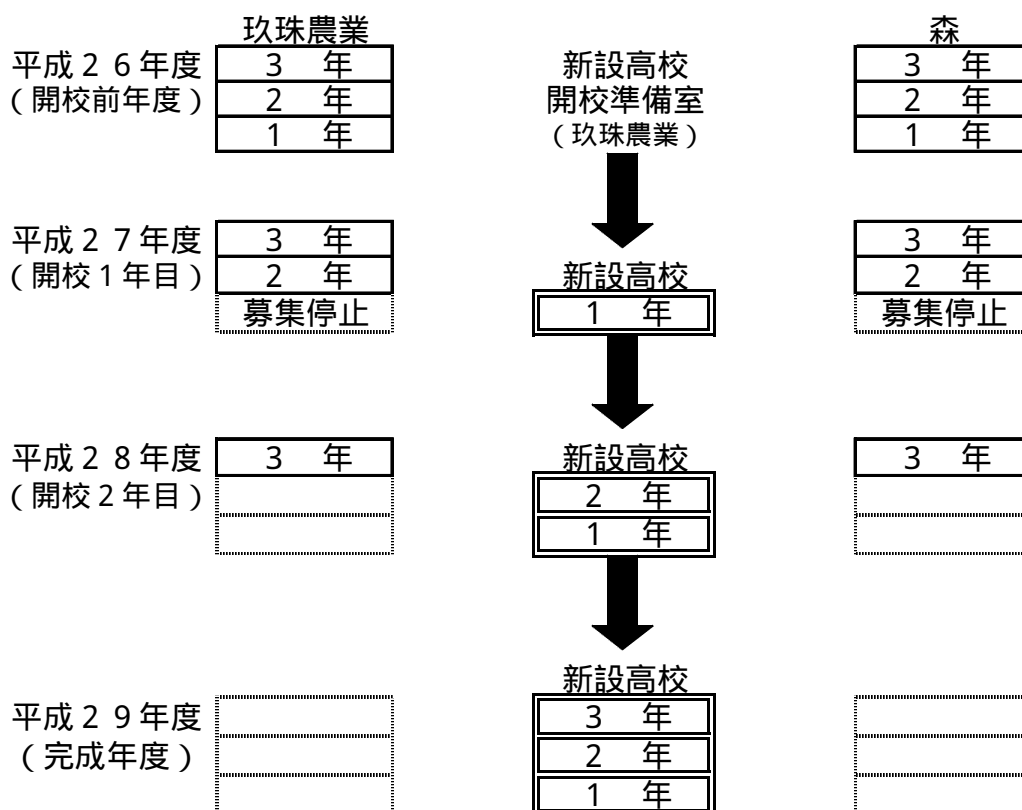


(8) 日田・玖珠地域(玖珠町)

玖珠農業高校と森高校を統合し、総合選択制高校とする。

平成20年度 第1学年	玖珠農業高校：農業系学科2学級 森高校：普通科4学級
新設高校の場所	現 玖珠農業高校の校地(玖珠町)
開校年度	平成27年度(平成27年4月1日)
設置学科及び 学校規模	普通科4学級・農業系学科1学級程度 1学年5学級程度

統合の手順



5 高等学校の再編整備計画策定に係る「農業（高校）の基本的な考え方」について

農業（高校）の再編整備については、前期再編整備計画と同様に次の考え方による。

- 1 農業の再生が県政の最重要課題であることや、農業教育の果たす役割の重要性については認識しており、これまでも農林水産部とも十分協議して共通認識のもとに今回の計画を策定したところである。
- 2 農業教育の現状を見ると、農業科への中学生や保護者の進学希望が少ないことや、卒業後の農業関係への就業者も少ないことなどがあり、農業高校を取り巻く状況は大変厳しい。
- 3 そうした中で、これからの農業教育の重要性を鑑み、農業に関する学校・学科をどのようにして存続するのかという視点で検討した結果、農業を単独校として1校に集約するよりも、県内各地でそれぞれの地域に合った農業を学習できるよう、県内各地にバランスよく農業に関する学科を配置することとした。
- 4 これからの農業を担う若者には、農業を軸足として経営や商取引に関することなど幅広い学習が必要になるとの指摘があり、農業科に所属していながら必要に応じて他学科の学習もできるという総合選択制のメリットを、適正規模の高校の中で最大限に活用することでより一層学習意欲が喚起され、進学力・就職力が向上し、ひいては農業教育の充実にもつながる。
- 5 18年度に開校した三重総合高校は、県内初の総合選択制高校として農業科が商業科や普通科と併置されており、総合選択制のメリットを活かし、例えば農業科の生徒であっても商業科の学習をして資格が取れるなど、生徒や保護者のニーズに対応できている。
- 6 総合選択制高校は、それぞれの学科の専門性や特色を維持しつつ他の学科との有機的な連携を図りバランスのとれた学校経営に努める。

（参考）

仮に農業高校を1校に集約すれば、多くの生徒は遠距離通学または寮生活を余儀なくされる。

この1校への希望が少なくなれば、大分県から農業に関する学科がなくなることが懸念される。

適正規模の高校の中で各地にバランスよく配置するという考え方であれば、県全体として10学級以上の農業に関する学科が存続できるのに対し、1校に集約すれば最大4学級程度となる。

今後、農業に関する学科へのニーズが高まれば学級・学科増で柔軟に対応できる。

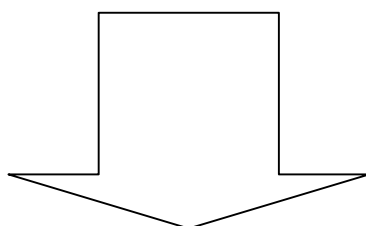
6 募集停止の基準

「大分県公立高等学校適正配置等懇話会報告」（平成11年7月）による募集停止基準は、平成22年4月から次のとおりとする。

募集停止基準

平成11年7月22日 「大分県公立高等学校適正配置等懇話会報告」から

	対 象	基 準
A	1 学年 1 学級の分校	2 年連続して在籍生徒数が総入学定員の3分の2未満（66.7%未満）
		2 年連続して欠員があり、地元からの入学者が地元卒業者の2分の1未満
B	1 学年 2 学級の学校	2 年連続して在籍生徒数が総入学定員の3分の2未満（66.7%）
C	定時制高校	2 年連続して入学者が10人未満
D	大半が小規模校の通学区の学校	大半の学校が1 学年 3 ~ 5 学級の小規模校化が予想される通学区



新募集停止基準

平成22年4月から実施

	対 象	基 準
	1 学年 1 学級の分校	2 年連続して在籍生徒数が総入学定員の3分の2未満（66.7%未満）
	1 学年 2 学級の学校	
	定時制課程	2 年連続して入学者が10人未満

【参考資料】

「高校改革」の経緯	... 1 5
「高校改革推進計画」(平成17年3月29日策定) からの抜粋等(再編整備関係)	... 1 6
前期再編整備計画(平成17～21年度)の進捗状況	... 1 8
大分県中学校卒業生数の推移	... 1 9

「高校改革」の経緯

年 月	内 容
平成 5 年 5 月	大分県学校教育審議会答申 「生徒減少期に対応する高等学校教育の在り方について」 ・高等学校入学者選抜制度の改善 ・学校・学科の規模・配置の適正化
平成 11 年 7 月	大分県公立高等学校適正配置等懇話会報告 「大分県立高等学校の学校規模の適正化及び学校・学科の適正配置等の在り方について」 ・学校規模適正化及び学校・学科の適正配置 ～募集停止基準の設定、普通科、総合学科の配置等について提言～ ・社会の変化等に対応した高等学校教育の在り方 ～単位制高校の設置、中高一貫教育の導入、女子高等学校の改編、新しい学科の設置検討が必要と提言～
平成 16 年 12 月	高等学校改革プラン検討委員会報告 「今後の県立高等学校の在り方について」 ・高等学校の再編整備、通学区域制度の見直し、高等学校入学者選抜制度の改善 ～再編整備指針、平成 21 年度までの再編整備計画、新しいタイプの学校、通学区域の拡大、教職員の意識改革について提言～
平成 17 年 3 月	高等学校改革プラン検討委員会報告を踏まえ、「高校改革推進計画」策定 10 年後（平成 26 年度）の高等学校の在るべき姿を見据え、「再編整備指針」に基づき当面 21 年度までの前期再編整備計画を示す
平成 19 年 10 月	「後期再編整備計画」（平成 22～26 年度）の策定に着手 第 1 回高等学校再編整備懇話会 ・前期再編整備計画の成果・課題の説明と後期再編整備計画の基本的な考え方を示す
平成 20 年 1 月	第 2 回高等学校再編整備懇話会 ・「検討素案」発表（1 月 9 日）
1 月～	地域別高校再編懇話会（6 地域）、地域別説明会（各地）
4 月	第 3 回高等学校再編整備懇話会 ・地域別懇話会・説明会の報告 「中間まとめ」発表（4 月 30 日）
5 月～	地域別高校再編懇話会（6 地域）、地域別説明会（各地） パブリックコメント（5 月 8 日～6 月 9 日 8 人 23 件） 高校改革に関する説明会等 （平成 20 年 8 月まで 129 カ所 約 16,000 人）

「高校改革推進計画」(平成17年3月29日策定)からの抜粋等(再編整備関係)

高校改革推進計画策定の背景

1 社会の変化

- ・情報化や科学技術の進展、少子化や高齢化など新たな課題の発生。
- ・規制緩和や地方分権など国や地方の在り方に関する基本的な枠組みの変化。

2 生徒の多様化

- ・中学校卒業者のうち98%が高校に進学。(平成16年3月)
- ・生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化。

3 急激な生徒数の減少

- ・中学校卒業生数の急激な減少。

昭和39年36,736人をピークにして、平成16年には12,872人、平成26年には10,606人に減少。

今後も急激な減少が見込まれる。

- ・公立高校第1学年平均学級数は平成16年度現在4.6。
(全国7番目、九州で最も小さい学級数)

高校改革推進計画の基本的な考え方

1 適正な学校規模及び学校・学科の配置

(1) 現状と課題

- ・平成17年度公立高校(全日制、分校含む)における第1学年学級数3学級以下の学校は、53校中20校。(全学校数の約4割)

(2) 計画の方向

- ・高校としての適正規模は、1学年6学級から8学級。(1学級40人)
学校・学科の配置や地域の実情等を勘案し、1学年4学級から5学級もやむを得ない。
- ・適正規模の学校が必要な主な理由
小中学生と異なり、高校生は厳しい現実の社会が目前。社会性・自主性・協調性等を育むためには、多くの個性的な生徒と出会い、お互いに切磋琢磨する環境が大切。
進学や就職等の進路希望に適切に対応するためには、教科・科目の専門性を確保することが大切。(教員数の確保)
自分の興味・関心に応じて、多くの部活動の中から選択できることも大切。

2 特色ある学校づくり

(1) 現状と課題

- ・社会の変化、生徒の進路希望、興味・関心、生き方や考え方の多様化。
- ・以前から設置されている普通科、専門学科等の在り方も変化。

(2) 計画の方向

新しいタイプの学校の設置・導入

- ・生徒の多様な学習ニーズに弾力的に対応するため、創意工夫ある教育課程の編成等による学校の特色化の推進とともに、新しいタイプの学校を積極的に設置・導入。

(ア) 総合選択制高校

学科の専門性を維持しつつ、所属する学科の枠を超えて、他の学科の教科・科目を選択履修できる高校。

(イ) 中高一貫教育校

中学校、高校の6年間の継続した教育の中で、生徒の個性や創造性を伸ばしていく制度。普通科高校の選択肢の一つとして併設型中高一貫教育校を設置。

(ウ) 単位制普通科高校

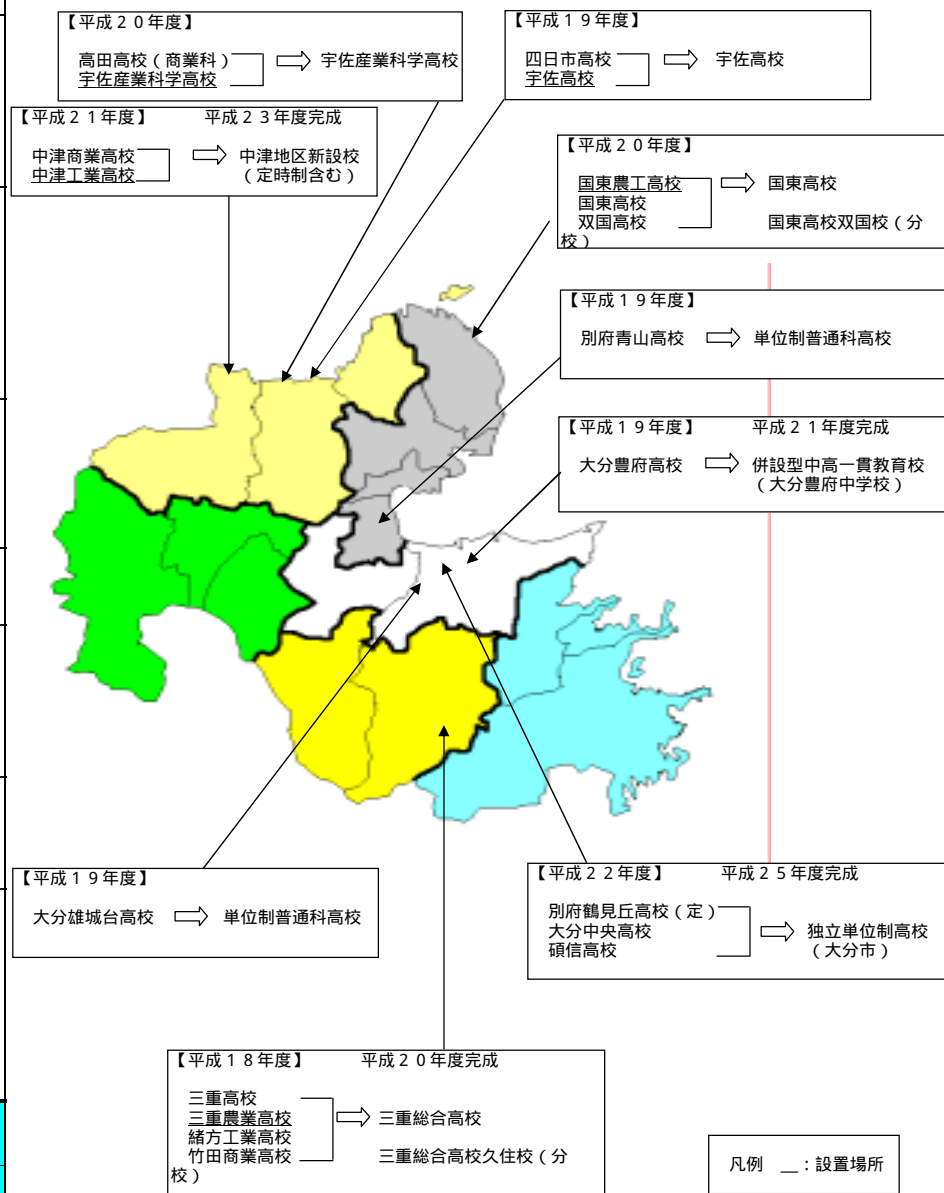
普通科高校において生徒が自己の進路希望に応じて科目を選択することができ、進路に応じた効率的な学習ができる高校。

(エ) 独立単位制高校

定時制と通信制の両方を設置している単位制の高校。定時制、通信制と単位制の特色を生かし、自分の生活時間に合わせて学習することができる。定時制の昼間部と夜間部、通信制との併修ができる。また、中途退学や生涯学習社会にも対応できる。

前期再編整備計画（平成17～21年度）の進捗状況（平成17年3月29日「高校改革推進計画」策定）

対象校等	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
三重総合高校 (三重・三重農業・ 緒方工業・竹田商 業の統合)	三重高校、三重農 業高校、緒方工業 高校、竹田商業高 校 最後の入学生 「新設高校開校準 備室」を三重農業 高校内に設置	募集停止 (2・3年生が残 る) 三重総合高校開校 1年生のみ在籍	3年生のみ在籍 年度末に4校閉校 三重総合高校 1・2年生在籍	三重総合高校 全学年在籍	
宇佐高校 (四日市・宇佐の統 合)	協議会の具体的な 活動 (統合に向けた教 育課程や学校行 事、同窓会等の 調整) 両校の1年生は3 年次(19年度) に同じ新設校の生 徒となる。	「新設高校開校準 備室」を宇佐高校 内に設置 1年生は2年次、 2年生は3年次に 同じ新設校の生徒 となる。	宇佐高校開校 新設校1年生を 募集と同時に、四 日市・宇佐高校の 2・3年生が同じ 新設校の生徒とな る。 全校生徒702人		
大分豊府 中高一貫教育校	大分豊府高校内に プロジェクトチ ームの立ち上げ	「県立中学校開校 準備室」を大分豊 府高校内に設置	大分豊府中学校開 校 (中学1年:3学級) (高校1年:8学級 2年:8学級 3年:8学級)	大分豊府中学校 全学年在籍	
大分雄城台・ 別府青山高校	校内プロジェクト チームの立ち上げ 調査・研究	教育課程等整備、 広報等	単位制の導入		全学年に単位制 導入
独立単位制高校 (碩信・大分中央・ 別府鶴見丘(定) の統合)	高校改革推進室内 業務として調査・ 研究 文部科学省委嘱事 業の活用 ステップ・アッ プ協議会	高校改革推進室内 業務として調査・ 研究 文部科学省委嘱事 業の活用 ステップ・アッ プ協議会	独立単位制高校基 本構想検討	「単位制高校開校 準備班」を高校改 革推進室内に設置	平成22年4月開 校
宇佐産業科学 高校 (高田高校の商業科 を統合)	宇佐産業科学高校 内にプロジェクト チームの立ち上げ	プロジェクトチ ームによる調査・研 究 学科名・学級数決 定 19年3月	プロジェクトチ ームによる調査・研 究 中学校等への広報	総合選択制の導入 (農・工・商・ 家)	
国東高校 (国東農工・国東・ 双 国の統合)	統合のための協議 会の設置 (円滑な統合に向 けた具体的な協 議について) 平成18年度入試 に係る申し合わせ 事項のすりあわせ	協議会の具体的な 活動 (統合に向けた学 校行事、同窓会 等の調整) 双国高校普通科募 集停止 (商業科1学級) 学科名・学級数決 定 19年3月	「新設高校開校準 備室」を国東農工 高校内に設置 1年生は2年次、 2年生は3年次に 同じ新設校の生徒 となる。	国東高校開校 新設校1年生を 募集と同時に、国 東農工・国東高校 の2・3年生が同 じ新設校の生徒と なる。 双国高校は分校と なる。	
中津地区新設校 (中津商業・中津工 業の統合)	校内プロジェクト チームの立ち上げ	プロジェクトチ ームによる調査・研 究 学科名・学級数決 定 20年3月	プロジェクトチ ームによる調査・研 究 学科名・学級数決 定 20年3月	中津商業高校、中 津工業高校 最後の入学生 「新設高校開校準 備室」を中津工業 高校内に設置	全日制2・3年生 定時制2・3・4 年生が残る。 新設高校開校 1年生のみ在籍



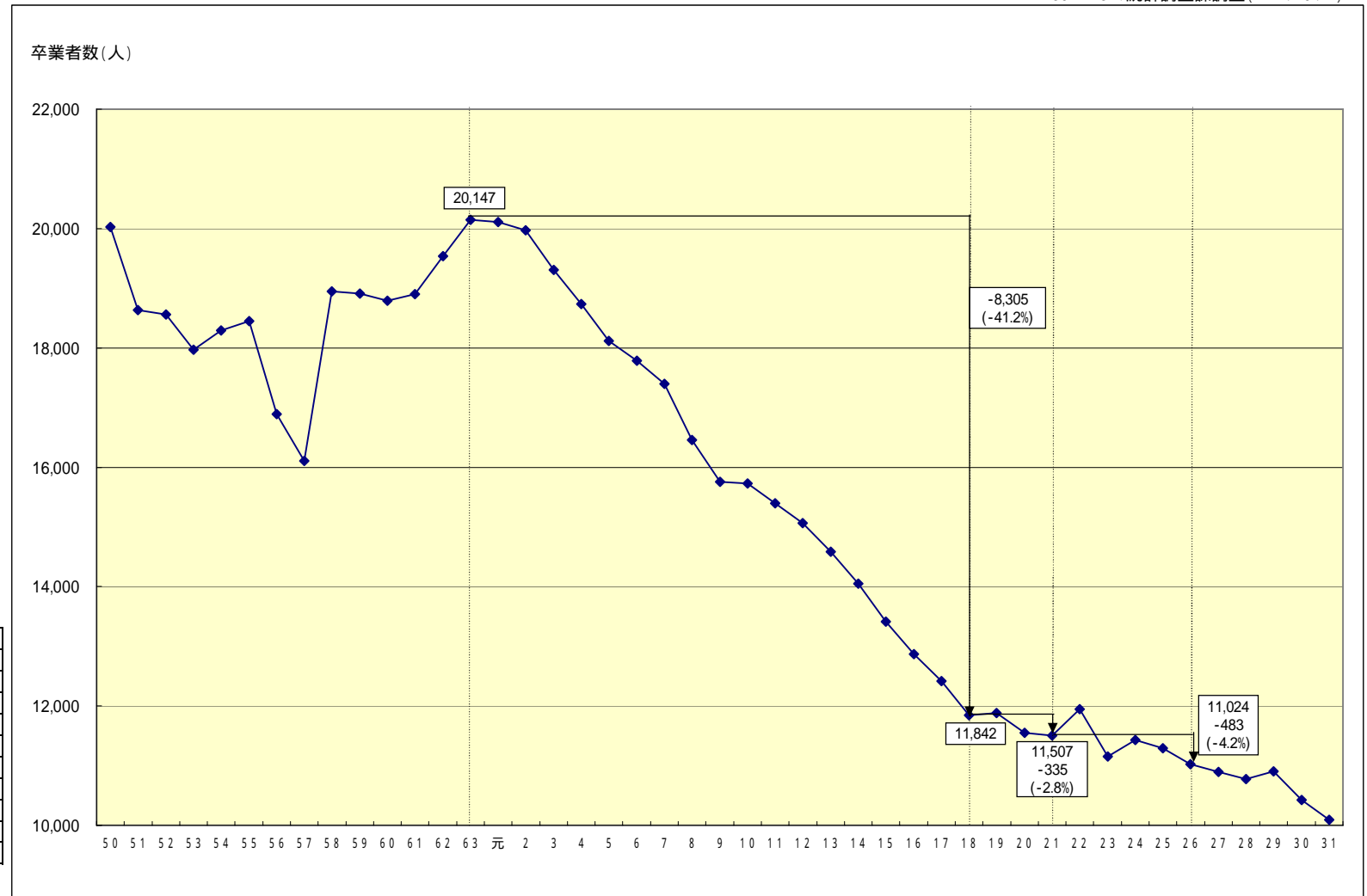
大分県中学校卒業生数の推移

平成20年7月29日現在

ピーク 昭和39年 [卒業生数] 36,736人

年(3月)	卒業生数(人)	
昭和50	20,022	
51	18,629	
52	18,563	
53	17,967	
54	18,289	
55	18,451	
56	16,889	
57	16,104	
58	18,946	
59	18,906	
60	18,791	
61	18,899	
62	19,539	
63	20,147	
平成元	20,108	
2	19,973	
3	19,308	
4	18,736	
5	18,114	
6	17,782	
7	17,394	
8	16,457	
9	15,751	
10	15,725	
11	15,398	
12	15,066	
13	14,583	
14	14,051	
15	13,414	
16	12,872	
17	12,414	
18	11,842	
19	11,885	現学年
20	11,545	高1
21	11,507	中3
22	11,944	中2
23	11,153	中1
24	11,428	小6
25	11,290	小5
26	11,024	小4
27	10,894	小3
28	10,779	小2
29	10,906	小1
30	10,422	
31	10,096	

・S50～H20:学校統計
 ・H21～H29:学校基本調査(H20.5.1)
 ・H30～H31:統計調査課調査(H17.10.1)



高校改革推進計画

後期再編整備計画

[平成22～27年度]

～ 特色・魅力・活力ある学校づくりに向けて ～

大分県教育庁高校改革推進室

〒870-8503

大分市府内町3丁目10番1号

電話(097)536-1111(内線5606)

FAX (097)506-1796

<http://koukoukaikaku.oita-ed.jp/>

e-mail a31240@ed.pref.oita.lg.jp
